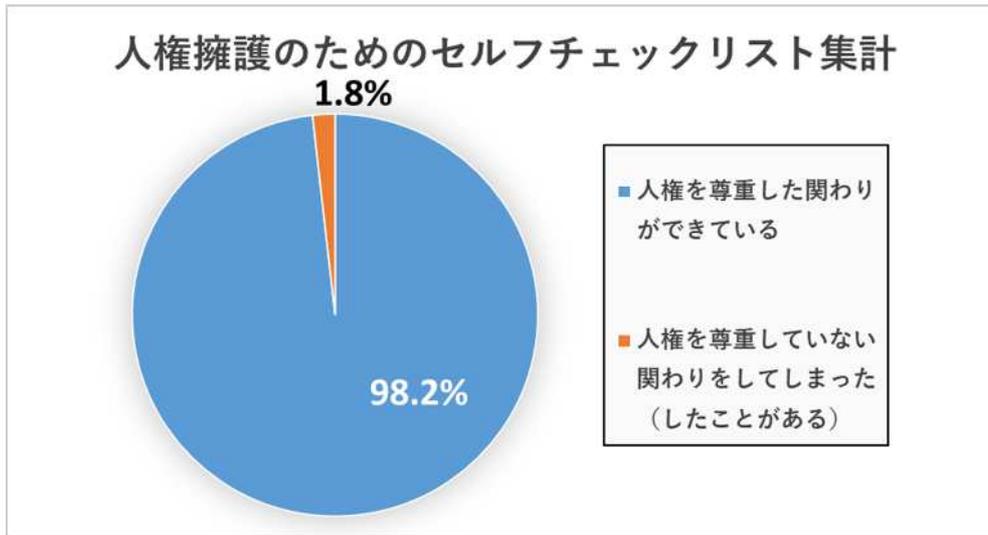


## 住吉保育所

人権擁護のためのセルフチェックリストの実施結果（令和6年度6月実施）  
全国保育士会が作成した「保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト  
～「子どもを尊重する保育」のために～」を使用しました。



全設問に対して 98.2%が望ましい対応をしていることが分かりました。1.8%の望ましくない対応は主に次の3項目に見られました。

- ・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。

上記の項目につきましては、やはり直ぐにトイレへ行かれない散歩やプールの前など、活動の内容を考えるとトイレを促してしまいます。子どもたちへ理由を伝え、強制ではなく、子どもの気持ちを尊重していくことを再度共有しました。また、乳時期の子どもたちはトイレへ行くタイミングが一人ひとり異なり、担当が個々の排尿感覚を概ね把握しているため、様子を見ながら子どもたちに寄り添った声かけを心掛けることを確認しました。

- ・集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「 しないなら できないからね」と言葉をかける。

上記の項目につきましては、強制するような言い方や、子どもたちのやる気が損なわれてしまうような言葉ではなく、子どもたちが「次はどんな楽しいことがあるのかな～」など、活動に期待が持てるような伝え方をしたり、切り替えの少し前に一度声掛けをすることで、子どもも見通しをもって活動でき、お互いにスムーズに行動ができるのではないかと共有しました。

- ・少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

上記の項目につきましては、少食なお子さんは、定量でも多いと感じて食べる意欲を失うことがあります。みんなが同じ量ではなく、自分で量が決められるようなやり取りが大切だと確認しました。自分で決め、食べきれた時の達成感や満足感にもつなげていきたいと共有しました。